第 61 回 数理社会学会大会（JAMS61）プログラム

日時：2016 年 3 月 17 日（木）～3 月 18 日（金）
会場：上智大学　四谷キャンパス
大会委員長：竹ノ下弘久（上智大学）

1　参加費，懇親会費（セミナーおよびシンポジウムの参加は無料）

大会参加費	一般（会員）	4,000 円	学生・院生（会員）	1,000 円
	一般（非会員）	5,000 円	学生・院生（非会員）	1,500 円
懇親会費	一般	6,000 円	学生・院生	2,000 円

2　主なスケジュール

	時間	3 号館 2 階 227（シンポジウムおよび総会は 12 号館 5 階 502）	3 号館 2 階 226	その他
3 月 16 日	15:00～17:00			セミナー（11 号館 2 階 209）
3 月 17 日	10：00～11:15	第 1 部会	第 2 部会	
	11:25～12:40	第 3 部会	第 4 部会	
	12:45～13:30			編集委員会ワークショップ（3 号館 227）
	13:30～14:50			萌芽的セッション（3 号館 1 階 123）
	15:00～17:00	シンポジウム（12 号館 5 階 502）		
	17:05～18:05	総会（12 号館 5 階 502）		
	18:15～20:00			懇親会（2 号館 5 階カフェテリア）
3 月 18 日	10：00～11:15	第 5 部会	第 6 部会	
	11:25～12:40	第 7 部会	第 8 部会	
	13:00～14:30			若手交流ラウンドテーブル（2 号館 15 階 1530a・1530b・1529）

3　主な会場（上智大学四谷キャンパス　3 号館）
・受付：3 号館 2 階 223 前付近．会員控室・抜き刷り交換コーナー：3 号館 2 階 223

4　口頭報告者へのお願い（自由報告）
・部会開始 5 分前に集合して，司会者と打ち合わせをしてください．報告 15 分，討論 10 分です．
・会場設置パソコンを利用できます（Windows8.1，Office2013）．持参パソコンの場合，Windows ノートパソコンが使用可能です．その他の機器使用を希望する場合はご連絡ください．

・ファイルは当日持参してください（USB メモリ利用可）.
・配布資料は，報告直前に配布してください．残部は持ち帰るか，抜き刷りコーナーに置いてください.
・（司会者の方々へ）部会開始 5 分前に集合ください．報告 12 分で 1 鈴，15 分 2 鈴，25 分 3 鈴を鳴らします.

5　ポスター報告者へのお願い（萌芽的セッション報告）
・ポスターは大会 1 日目の午前 11 時から午後 4 時までの間掲示．閉会後は各自で持ち帰ってください.
・最大で 750×1300mm のスペースが利用可能．報告ごとにポスター位置が指定されています.
・ポスターの貼りつけには画鋲あるいはセロハンテープ（いずれも開催校が用意）が使用可能です.
・部会開始 5 分前に集合してください.

6　問い合わせ先

研究事務局　〒981-3193　仙台市泉区天神沢 2-1-1

東北学院大学教養学部　神林博史　E-mail：jams.research[at]gmail.com, Tel:022-773-3712

大会事務局　〒102-8554　千代田区紀尾井町 7-1

上智大学・総合人間科学部　竹ノ下弘久　E-mail：jams.meeting61[at]gmail.com, Tel: 03-3238-3967

3 月 16 日（水）

13：00〜15：00　研究活動委員会（2 号館 1530a）
13：00〜15：00　編集委員会（2 号館 1530b）
15：00〜17：00　ワンステップアップセミナー「計算社会科学入門：Web 上のデータの収集・処理・分析」
（講師：瀧川裕貴）　（11 号館 209）
17：00〜20：00　理事会（2 号館 1530b）

3 月 17 日（木）

09:30　開場・受付　3 号館 2 階 223 前付近

09:55　開会挨拶　3 号館 2 階 227　大会委員長　竹ノ下弘久（上智大学）

10:00〜11:15　自由報告Ⅰ

【第 1 部会】会員企画部会：「階層と意識研究プロジェクト成果報告―2015 年第 1 回 SSP 調査データにみる新たな動向」　3 号館 2 階 227　司会　吉川徹（大阪大学）

1	権威主義的態度の APC 分析 ―2015 年 SSP 調査データによる分析（1）	松本雄大（大阪大学）
2	幸福と不幸は同じ規定要因をもつのか ―2015 年 SSP 調査データによる分析（2）	○小林盾（成蹊大学） カローラ・ホメリヒ（北海道大学）
3	人々はどのように他者所得を認知しているのか？ ―2015 年 SSP 調査データによる分析（3）	前田豊（立教大学）

【第 2 部会】ゲーム理論とその応用　3 号館 2 階 226　司会　吉良洋輔（東京工業大学）

1	後向き帰納法再考―部分ゲーム完全均衡は真に妥当な均衡概念か？	河野敬雄
2	コミュニティ・ユニオンの助け合い ―不完全情報私的観測ゲームによる分析	○大林真也（東京大学・日本学術振興会） 神取道宏（東京大学）
3	仲介者取引と直接取引の選択に関する実験的検証	○藤倉崇晃（筑波大学・日本学術振興会） 小川一仁（関西大学） 秋山英三（筑波大学）

11:25〜12:40　自由報告Ⅱ

【第 3 部会】多様なデータの処理と分析　3 号館 2 階 227　司会　中井豊（芝浦工業大学）

1	計算社会科学的アプローチによる数理社会学史の試み ―『理論と方法』に関する構造トピックモデル分析	瀧川裕貴（東北大学）
2	職業コーディング自動化システム利用に関する評価 ―社会階層研究を事例に	○高橋和子（敬愛大学） 多喜弘文（法政大学） 田辺俊介（早稲田大学）
3	『人の流れ』データを用いたひったくりの被害リスクの推定 ― 属性情報を加味した分析	原田豊（科学警察研究所）

【第 4 部会】社会問題と公共性　3 号館 2 階 226　　司会　轟亮（金沢大学）

1	誰が「集団的自衛権」を容認したのか？―2015 年長野県調査より	辻竜平（信州大学）
2	現代日本若年女男「子育て」をめぐる３つのデータの考察 ―「脱・過剰自己実現欲求」女?/「豊かな男」の新たなフロンティア？/「生きづらい男」の最終アジール？	桜井芳生（鹿児島大学）
3	濫用される国際比較調査と日本の世論形成 ―International Fertility Decision-making Survey と少子化社会対策大綱	田中重人（東北大学）

＊＊＊＊昼食休憩（12:40～13:30）＊＊＊＊

12:45～13:30　編集委員会ワークショップ　3 号館 2 階 227

「『理論と方法』の審査システム―投稿者と査読者になにを期待しているのか」

登壇者：

小林盾（成蹊大学,『理論と方法』編集委員長）

内藤準（首都大学東京,『理論と方法』編集委員）

※昼食をとりながら行いますので、参加をご希望の方は昼食をご持参ください。

13:30～14:50　萌芽的セッション（ポスター報告）3 号館 1 階 123

1	女性配偶者の就労からみる世帯の不平等の生成過程 ―JLPS パネルデータを用いた時系列分析	打越文弥（東京大学）
2	大学同窓会ネットワークにおける結節者の特徴―同窓会誌から得られるアフィリエーション・ネットワークをもとに	津曲達也（九州大学）
3	繰り返し囚人のジレンマにおける復帰可能な退出戦略の進化	○坂本雄飛（芝浦工業大学） 武藤正義（芝浦工業大学）
4	ベイジアン・モデルによる所得分布イメージの分析	石田淳（大阪経済大学）
5	恋愛結婚の普及と晩婚化の関連についての検討 ―サーチングコストに着目したマルコフ決定過程による分析	毛塚和宏（東北大学）
6	他者の内部状態の推定に関するシミュレーション	○水上健太（芝浦工業大学） 武藤正義（芝浦工業大学）
7	ネットワーク特性と普及メカニズムの関係	○並木翔太（芝浦工業大学） 武藤正義（芝浦工業大学）
8	幸福と不幸のメカニズムについての一考察 ―「国民性に関する意識動向継続調査 第 3 回調査」の分析を通じて	○稲垣佑典（統計数理研究所） 中村 隆　（統計数理研究所） 前田忠彦（統計数理研究所） 朴 堯星　（統計数理研究所）
9	20 年間の親密な友人関係における接触頻度の変化	石黒格（日本女子大学）
10	首長のソーシャル・キャピタルは自治体パフォーマンスを向上させるのか―2011 年フィリピン地方自治体エリートサーヴェイ調査首	○小林盾（成蹊大学） 大崎裕子（成蹊大学）

	長票の分析	西村謙一（大阪大学）
11	分位点回帰を用いた政府支出への支持の分析	池田裕（京都大学）
12	中高生の生活時間の探索的分析―最適マッチング分析を用いて	胡中孟徳（東京大学）
13	社会的ネットワーク形成の数理モデル ―『Community Power Structure』のデータを事例にして	○鈴木遼（東北大学） 毛塚和宏（東北大学）
14	共同性がもたらす開かれたネットワークと文化的多様性	○小倉幾太郎（芝浦工業大学） 武藤正義（芝浦工業大学） 中井豊（芝浦工業大学）
15	移民背景をもつ生徒のリテラシーに対して学校レベルと国レベルの要因が与える影響の検討	木原盾（東京大学）
16E	The Less Favored Foreigners: Japanese Attitudes toward Chinese and South Korean Immigrants（在日中国人と韓国人に対する日本社会の意識）	ZHANG Jie（早稲田大学）
17	現代日本における科学観と保守主義の関係	○藤田智博（京都大学） 山本耕平（京都大学） 太郎丸博（京都大学）
18	社会関係的資源と自由	内藤準（首都大学東京）
19E	Framing effects in the resolution of the mixed-motivation problem transformed into the doctrinal paradox	関口卓也（日本学術振興会・総合研究大学院大学）
20	所得が上がるほど幸せかー準拠集団仮説の検討	髙松里江（大阪大学）
21	組織性と権力に関するゲーム理論的分析	武藤正義（芝浦工業大学）
22	学歴が収入に与える影響とそのメカニズム ―修正 DFL 法による要因分解	林川友貴（東京大学）
23	非協力的なエージェントがもたらす協力社会	○梅谷春延（芝浦工業大学） 武藤正義（芝浦工業大学） 中井豊（芝浦工業大学）
24	国民性関連調査における訪問記録の基礎分析	前田忠彦（統計数理研究所）
25	4 件法の質問紙調査法における Brunner-Munzel 検定の活用	小川健（専修大学）
26	国民性調査関連項目のパネル調査における安定性に関する基礎分析	○中村隆（統計数理研究所） 稲垣佑典（統計数理研究所） 前田忠彦（統計数理研究所） 朴　堯星（統計数理研究所）
27	誰が社会的投資を行なうのか―ISSP データによる検討	朝岡誠（立教大学）
28	リスク経験が所得再分配選好に及ぼす影響	申在烈（大阪大学）
29	ドイツにおける出生地主義政策の導入とドイツ国民の エスノ文化的価値観―ブルーベイカー論の計量的検討	五十嵐彰（東北大学）
30	なぜ、保護者たちは中学受験を選択するのか	豊永耕平（東京大学）
31	誰が誰を助けるのか？（1） コミュニティ・ユニオンから得られたデータによる記述的分析	○塚田憲史（東京大学） 大林真也（東京大学・日本学術振興会） 神取道宏（東京大学）
32	誰が誰を助けるのか？（2）	○大林真也（東京大学・日本学術振興会）

	ユニオンデータの時系列ネットワーク分析	塚田憲史（東京大学） 神取道宏（東京大学）
33	私立中学進学が教育期待と自己効力感に及ぼす影響 ―傾向スコアを用いた分析	森 いづみ（東京大学）
34	女性における選好の個体内変化	○田中茜（東北大学）
35	寛容性/排他性の多重構造とその規定要因 ―「回避的外国人意識」に着目して	山本直子（慶應義塾大学）
36E	Comparative Analysis of Social Networks among Urban Wards in Japan.	SUGANO Tsuyoshi (Nihon University)

15：00～17：00　シンポジウム

シンポジウム　「日本の数理・計量社会学のこれまでとこれから」　12 号館 5 階 502

司会：浜田宏（東北大学）

登壇者：

石田淳（大阪経済大学）
大林真也（東京大学）
金澤悠介（岩手県立大学）
長松奈美江（関西学院大学）
海野道郎
佐藤嘉倫（東北大学）
盛山和夫（関西学院大学）
太郎丸博（京都大学）

オーガナイザ：筒井淳也（立命館大学）・神林博史（東北学院大学）

17：05～18：05　総会　12 号館 5 階 502

18：15～20：00　懇親会　2 号館 5 階カフェテリア

9:30　開場・受付　3 号館 2 階 223 前付近

10:00～11:15　自由報告Ⅲ

【第 5 部会】社会調査とその方法　3 号館 2 階 227　　司会　藤原翔（東京大学）

1 E	Comparing Societies and Cultures: Challenges of Cross-Cultural Survey Research as an Approach to Spatial Analysis	Nina Baur (Technische Universität Berlin)
2 E	A Comparison between CATI and CAWI on Social Desirability Response	Pei-shan Liao (Academia Sinica)
3	回収率の向上策に関する実験研究 ―調布市・西東京市の住民を対象とした郵送調査の結果から―	○朴 堯星（統計数理研究所） 土屋 隆裕（統計数理研究所）

【第 6 部会】社会理論と数理　3 号館 2 階 226　　司会　武藤正義（芝浦工業大学）

1	デュルケムとモースの数理	落合仁司（同志社大学）
2	随伴による社会学モデル	大山智徳（日本郵便広島支店）
3	安保法制反対大運動と「複雑系社会変革理論」	○嶋田一郎（東北大学） 小山富男（東北大学）

11:25～12:40 自由報告Ⅳ

【第 7 部会】ネットワークと社会関係資本　3 号館 2 階 227　　司会　菅野剛（日本大学）

1	Conversation, Advice and Goods Borrowing Networks	藤山英樹（獨協大学）
2	地域社会信頼とフリーライダー	三隅一人（九州大学）
3 E	The Role of Social Capital in Explaining Volunteerism in Japan and South Korea	石澤宏美（George Washington University）

【第 8 部会】計量分析の最前線　3 号館 2 階 226　　司会　多喜弘文（法政大学）

1	医療・介護サービスの提供体制は死亡場所を規定するか	大久保将貴（大阪大学・日本学術振興会）
2	連続型所得分布での近似による政策選好の把握 ―所得変換関数と最低所得水準	山本耕資（Hylab LLP）
3	Living Away or Leaving Home? ―NFRJ03 親子ダイアドデータを用いた世帯員認知の分析	吉田俊文（首都大学東京）

12:40　　閉会挨拶　3 号館 2 階 227　　大会委員長　竹ノ下弘久（上智大学）

13:00～14:30　若手交流ラウンドテーブル（2 号館 15 階 1530a、1530b、1529）

【テーブル 1】　ジェンダーと不平等　2 号館 15 階 1530a　司会　長松奈美江（関西学院大学）

1	理科系専門教育（STEM）志向に見られる性差の生成メカニズムの分析	白川俊之（大阪大学）
2	学歴同類結合と不平等の長期的趨勢 ―マクロレベルの学歴間賃金格差に着目して	打越文弥（東京大学）
3	キャリア形成と結婚・出産タイミング	池田岳大（東北大学）

【テーブル 2】　実証研究の方法論　2 号館 15 階 1530b　　司会　筒井淳也（立命館大学）

1	承認の概念の再検討と操作化の試み（仮）	智原あゆみ（関西学院大学）
2	事例先導型質的方法の方法論的長所	中澤香世（早稲田大学）
3	教師の教育信念と学校秩序の関係について	山本宏樹（東京理科大学）

【テーブル 3】　差別と寛容性／排他性　2 号館 15 階 1529　　司会　濱田国佑（駒澤大学）

1	差別を減少させる差別禁止政策の最も効果的な組み合わせ	五十嵐彰（東北大学）
2	寛容性/排他性の多重構造とその規定要因「回避的外国人意識」に着目して	山本直子（慶應義塾大学）

（備考）

1　○印は登壇者を示します．E は英語による報告です．The E symbol stands for English presentations.

2　「抜き刷り交換コーナー」を設けます．論文，報告書，マニュアル，自作ソフトなどを置けます．事前に「交換用抜き刷り」と表記して大会事務局宛に送付できます．

3　ワンステップアップ・セミナー参加（無料）には申し込みが必要です．詳細はセミナー案内をご覧ください．定員に余裕がある場合は当日参加受付もいたします．

4　ベビーシッターはご案内しておりません．必要な方はご相談ください．

5　大学敷地内は全面禁煙となっております．ご理解ご協力を願いたします．

6　開場校での無線 LAN サービスはありません．

（変更履歴）

2016 年 2 月 8 日　暫定版プログラム

2016 年 2 月 15 日　大会前確定版プログラム

2016 年 3 月 19 日　大会後確定版プログラム